

# 1 小学校・6学年・外国語活動の実践 「Hi friend Lesson 8 夢宣言をしよう」

## 実践の概要

本学級には、「分からない」と思った途端に学習意欲が低下し活動に取り組もうとしなくなる、注意・集中が持続せず私語や椅子、机をがたがたと揺らすなど落ち着きに欠ける、動作がゆっくりで周囲のペースに合わせる事が難しい、自分の感情をうまくコントロールできないといったさまざまな課題を抱えた児童が在籍している。外国語活動の時間は、課題を抱えた児童の主だった行動が比較的現れやすい授業の一つである。

## 1 単元について

### (1) 外国語活動について

昨年度より外国語活動が本格実施となったが、日本語とは大きく異なる英語の発音に対して、慣れ親しむまでには至っていないのが現状である。また、新学習指導要領では、『体験的に「話すこと」「聞くこと」』を重視しているため、外国語活動の授業の多くが英語の歌やゲームといった活動が中心になる。

### (2) 本単元の意図

外国語活動で取り上げるゲームは子供たちにとって一時的に楽しいという感覚が持てるものの、達成感が生まれにくかったり、感動が残りにくかったりするなど、表面的な学びになっているのではないかと感じられることもある。また、児童にとって馴染みのない外国語を使っている活動は、英語の発音が聞き取りにくい様々な課題が現れてくる。

そこで今回、この外国語活動の授業を通して、表面的な楽しさだけではなく、外国との交流の機会ととらえ深く考える機会としたい。

本単元「夢宣言をしよう」では、具体的に社会科「世界の中の日本」の単元の中で学習する「日本の果たす役割」や「ユニセフの活動」について学習を深める場であったり、国語「平和について考える」をテーマにして意見文を書くという学習の中で自分の考えを深めていく学習にもつながっていくものである。外国語活動だけでなく社会科、国語といった他教科との関連をふまえた授業を構成することで、様々な角度から世界へ目を向け世界の抱える問題について自分の考えを深めていくことができるものと考えた。さらに、ボスニア・ヘルツェゴビナの子供たちとの間接的な交流を通して様々な環境に置かれている同世代の世界の子供たちの話を聞き自分なりの考えを深め、今の自分の生活環境や考え方、将来への夢を再度問い直すきっかけとしたいと考えた。

### (3) 本単元の目標

- ・積極的に自分の夢について交流しようとする。
- ・どのような職業につきたいかを訪ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。
- ・世界には様々な夢を持つ同年代の子供がいることを知り、英語と日本語での職業を表す語の成り立ちを通して言葉の面白さに気づく。

## 2 本時の学習指導の実際

### (1) 本時の目標

- ・夢をたずねる表現や答え方 (What do you want to be? I want to be~.) の言い方に慣れ親しむ。
- ・世界には、様々な夢を持つ同年代の子供がいることを知る。

### (2) 展開

段階	活動内容	担任	外国語活動サポーター	ユニバーサルの視点
課題の把握	1 挨拶 ・ 始まりの挨拶 ・ 今日の天気 ・ 今日は何月何日何曜日 ・ 今日の気持ち 2 復習 America/china	C:授業の開始の合図 Let's start our English class.	今日の天気 How is the wether today? 今日の日時 What's date is it today? 今日の気分 How are you?	(6) 授業の組み立て ・はじめと最後の挨拶を毎時間同じとし見通しを持てるようにする。 (10)

	/Japan/India /France/Greece/ Brazil/Spain /Australia/Egypt /Spain <i>Bosnia and Herzegovina</i>  3 新出表現の学習 who am I? (私は誰でしょう?)  4 Who am I? ゲームをする。 新出表現の学習 What do you want to be?  5 自分の夢を友達に発表する。 ・ペア学習 ・グループ学習等	児童と共に間に答える What country?  Who am I? 写真を見せる。 What country? Who am I? 例) 1 I am a boy. 2 I live in Australia 3 I want to be a musician. 4 Who am I?	児童と共に復唱 America/china/Japan/ India/France/Greece/ Brazil/Spain/Australia/ Egypt/Spain / <i>Bosnia and Herzegovina</i>  国旗を写真のそばに貼る。	参加の促進 ・前時の復習から入ること で参加しようとする意欲を持たせる。  (10) 参加の促進 ・同じ英語のフレーズをクイズ形式にするなど変化を持たせていきながら英語の音に慣らしていく。 (10) 参加の促進 ・学習形態を変えることで、発表が苦手な児童の参加を促す。
問題の解決	6 ボスニアの子供たちの夢について聞く。  7 ボスニアの子供たちが自分の国で夢を描けるようにするにはどうしたらいいか考えカードに書く。	外国語活動サポーターとの役割演技 What do you want to be?  Why?	I don't have dream. I want to escape from country. 前時で使った挿絵を使いながら理由を説明する。	(10) 参加の促進 TTで役割演技をすることで、イメージを持たせやすくする。
まとめ	8 自分の考えを発表する。  9 挨拶	Let's finish this class		(10) 参加の促進 ・はじめと最後の挨拶を毎時間同じとし見通しを持てるようにする。

### 3 ユニバーサルデザインの視点

#### (1) 授業の見通し

○授業の始まりと終わりの挨拶を毎時間同じとし、安心して授業に取り組める時間を確保し授業への参加意欲を高める。

授業の始まりに毎時間挨拶、気分、日時、天気の違いなど、基本的な英語を取り入れて、英語を苦手とする児童でも、前向きな気持ちで授業に望むことができる。また、はじめと終わりの挨拶を英語の指示で行うことで、英語が分からなくても他の児童の動きを真似することでの一連の動作を行うことができる。さらに毎時間の繰り返しで、動きとともに英語の指示の理解につなげることができる。

#### (2) 参加の促進

○前時の復習から入ること  
 で参加しようとする意欲を持たせる。

週1時間の英語は、1週間たつと学んだことも忘れやすい。そこで、前時の復習を取り入れることで英語の発音に慣れ親しむことや児童の「英語が分からない。」という不安を軽減し授業への参加意欲を高めることができる。

○第1時で作成した将来の夢を記入したカードを手がかりにする。

自分の夢を、絵や言葉でカードに表現することで、自分の中に抱く夢をあらかじめ明確なものにしておくことができる。また、外国語活動は、英語ではなく絵や言葉(日本語)で表現してもよいという安心感が、英語への抵抗を少なくし授業への参加を促すことにつながる。発表するさいにカードを手掛かりにすることで自分が話した英語が相手に伝わらなくても話していることを理解してもらうことができ、「理解してもらえた。」という経験が「また英語で話してみよう。」という意欲にも繋がる。また、英語の言い方を覚えることが難しい児童は、カタ

カナでカードにメモしておく等自分なりの手がかりを残しより自信を持って発表できるようになる。

○変化を持たせながら英語の表現に慣らしていく。

英語のフレーズの単調な反復練習だけでは、児童の授業への参加意欲も下がってしまう。例えば「who am I game (私は誰でしょうゲーム)」の中で、写真の手掛かりを見せながら「who am I (私はだれ?) ?」という同じフレーズをクイズ形式で繰り返し問いかけていくことで、「先生の言っていることは、こういうことなのかな?」と知的な好奇心を喚起させ、楽しみながら英語のフレーズも耳に慣らしていくことができる。

(3) 個人差への配慮

○個人差に応じた発表の場を与えることで、全員が達成感を味わえるようにする。

自分が書いた「夢カード」をもとに、自分の夢を隣の席の児童に語る。人前で発表することが苦手な児童に1対1で発表する場を与えることで自信を持たせることができる。1対1のペア活動に慣れたあと、それぞれの児童の実態に応じた指令をカードの裏にあらかじめ書いておき、例えば「授業を参観している〇〇先生に自分の夢を語りましょう。」「男の子2名に語りましょう。」といったレベルアップのための活動に取り組む。

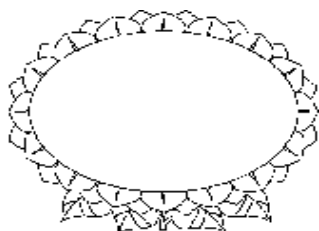


ペア活動



レベルアップの為の活動

自分の考えをカードに書く場面では、うまく言葉で表現できない児童に対しては、好きな色を選んで塗ってもよいという提案もする。自信を持って自分の思いを表現できる場を設定し安心して授業に取り組めるようにする。

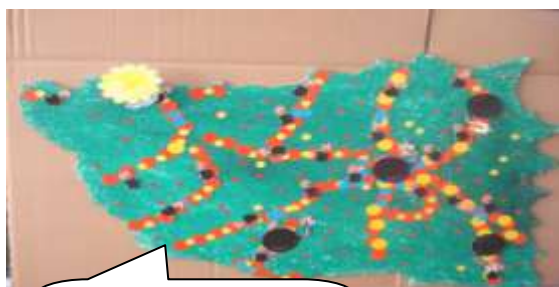


自分の考えを書くカード  
\*色をぬってもよい

(4) 参加の促進

○児童の想像を広げやすくするために写真や挿絵を用いる。

聞きなれない英語での説明は児童にとって理解することが難しいため、手掛かりとなる写真や挿絵を使用することにより、効果的に理解を促すことができる。



想像を広げるための  
地図の模型



手掛かりと  
なる写真や  
興味をひく  
地雷の模型

#### 4 成功へのポイント

##### (1) 授業の基盤となる学級作り

外国語活動は、週1回1時間で英語の発音は耳慣れないものも多く、聞いて理解することも、発表することも児童にとっては自信が持ちづらく不安も大きい。したがって、自分の発表を真剣に聞いてくれる友達の存在や、間違いを「大丈夫だよ。」と優しく受け止めてくれる学級の雰囲気や日々の学級経営の中で育てておくことが重要になる。安心が保証されている中であれば授業に対しても意欲的に参加できるものと考えられる。

##### (2) どの子にもスポットライトが当たる場を保证する

本時の授業では、どの活動においても、前時の復習やその子の実態に応じた発表の場、方法を設定している。1時間の授業の中で、「この部分だったら自信を持って参加できる」「この発表形態だったら発表できる」「自分の考えは文で表現できないけれど色でなら表現できる」等、その子なりのスポットライトの当たる場を保证していくことで、どの子も安心して授業に望むことができる。

##### (3) 機会と時期をとらえ学級にあった授業を組み立てる

本時の授業は、今年度出会った人や学校行事をちょうど良いタイミングで外国語活動の授業の中に取り上げたものである。児童の実体験を外国語活動に盛り込むことで、より実感の伴った理解へとつなげることができた。これは、外国語活動で重要であると言われる状況設定やロールプレイといった疑似体験よりもはるかに児童の心に響くものであり、理解を深めることにつなげることができる。

##### (4) 振り返りの場を設定することで、学んだことを積み上げていく

本時の授業内容のベースとなる基本的な価値観は日々の教師の語り、学級通信、掲示物等にできるだけ多く触れることで育っていくと考える。



##### (5) 思いを共有できる先生と授業を作り上げることで2倍のアイデアと工夫がふくらむ

今回は、TT という形で授業を行った。担任の思いに賛同してくださる先生と授業を作り上げることで、一人ではなかなか思いつかないアイデアや工夫が次々と出てきて授業を作り上げる楽しさも味わうことができる。

##### (6) 教室にあるもの全てが教材

教室にあるものすべてが児童の学びの環境の一つと考えると、担任は毎日、毎時間児童の学びを支える大切な環境の一つとなる。

その時間、授業に使えそうな人、教材、環境をどう融合させていくか児童にとって最大の環境要因である担任の果たす大事な役割の一つである。

##### (7) 「外国語活動の授業はこうあるべき」という考えから「児童の学びのためにこうあるべき」という視点を持つ

『できるだけ英語を使って児童に英語をインプットしていく。』といった、外国語活動の「こうあるべき」授業スタイルだけが一人歩きをしてしまい児童本来の「英語って楽しい。」「もっと英語を学びたい。」という児童本来の素直な気持ちを封じ込めてしまっていないだろうか。まずは、「子供たちがどうやったら外国語が楽しく学べるか」「学びたいと思えるか」を見失わないようにすることが大切である。

##### (8) 学んだことが何かしらの成果となることで『学ぶ喜び』へとつなげていく

個々の児童の学んだ成果は、1時間の授業であられるものではない。授業はもちろんのこと学校行事や休み時間での友達や先生とのやりとり等、毎日繰り返される学校生活の中で、そして学校だけでなく家庭生活の中で相互に絡み合っ育まれていくものである。1時間の授業の中で、学んだ成果があらわれなくても1ヶ月先、1年先、数年先に花開くこともある。

授業の中で学んだことが後に成果となって現れたり、別な形で花開く経験を持てることで学んだ実感や学ぶことの価値を見出すことができる。そのことが自分をさらに成長させ続けるための『学ぶ喜び』にもつなげていくことができるものだと考える。